

東日本大震災から8年。大きな被害を受けた沿岸各地は復興に向けて一歩一歩進んでいます。内陸にいる私たちも、できることから復興を支えていきませんか。  
危機管理防災課 ☎ 613-8336

# 1 忘れない。あのときのこと

東日本大震災で亡くなった人たちを追悼し、復興への誓いを新たにするため、「祈りの灯火2019」を開催します。テーマは「広がれ!つなげれ!明日に

向かって!」。今年も、全国で作られた1万個の灯籠に火を灯します。灯籠の温かい光に包まれながら、被災地への思いを新たにしませんか。



- 🕒 3月11日(月)13時~19時
- 黙とう 14時46分
- 灯籠点灯式 16時50分
- 📍 盛岡城跡公園(もりおか歴史文化館前広場)
- 桜山神社 東大通商業振興会各店
- 中津川河川敷(中ノ橋もと)



▲一つ一つ火を灯した灯籠が会場を彩ります

**追悼式**  
盛岡広域首長の式辞のほか、国主催の追悼式を中継します。  
🕒 14時半~15時  
📍 県公会堂(内丸)  
※震災発生時刻の14時46分に、市役所本庁舎と玉山総合事務所にて追悼のサイレンを鳴らします

## 内容

- 復興ステージ** 大宮中吹奏楽部や不来方高音楽部など
- 復興マーケット** 三陸の名産や復興商品の販売
- 復興屋台**  
ハピスコーヒー(釜石)  
たこやき八くん(宮城)  
MOGUMOGUキッチン(盛岡)  
くるみカフェ(盛岡)  
ゴウちゃんコロック(盛岡)

「語り部に聞く ~3.11あの日から~」  
沿岸地域で被災し、現在は盛岡で生活する6人が、当時の体験を語ります。(1人あたり15分程度)  
🕒 17時10分~18時、18時10分~19時  
📍 もりおか歴史文化館1階(内丸) 無料

「東日本大震災被災者手記『残したい記録 伝えたい記憶』」を3月11日に刊行予定。市内小・中学校の図書室や市立図書館・公民館などに配架します。どうぞご覧ください



## ボランティア募集

日時	場所	内容
3/1(金)、8(金)~10(日)	もりおか復興支援センター(内丸)	灯籠組み立て
3/10(日)		灯籠設置などの会場準備★
3/11(月)	盛岡城跡公園(内丸)とその周辺	灯籠設置などの会場準備や灯籠への点火、終了後の片付けなど★
3/16(土)		灯籠の片付けなど★
3/17(日)	もりおか復興支援しえあハート村(本宮五)	ガラス瓶の清掃★

★事前に参加申し込みが必要。「祈りの灯火2019」公式ホームページで申し込んでください

## 震災のことを思い返すきっかけに——

東日本大震災の翌年から、亡くなった人を思うこの行事に関わっています。この8年、全国各地で災害が起きている一方、震災の経験をしていない子どもが増え、震災の記憶が薄れていくことを不安に思う人もいます。この「祈りの灯火」は誰でも気軽に立ち寄れる行事です。さまざまなメッセージが書かれた灯籠を見て、それぞれの感じ方で震災のことを思う一つのきっかけにしてほしいです。



祈りの灯火2019実行委員会 吉田光晴実行委員長

# 2 支える。身近なところで

被災した地域に行って、ボランティア活動をするだけでなく、復興支援ではありません。内陸・盛岡に住む私たちが、普段の生活の中で無理なくできる支援について紹介します。

### ① 買い物をするときは、岩手産・三陸産を選ぼう

県内で採れた農産物は、県外から運ばれてくるものより鮮度が良いだけでなく、購入することで地域経済も潤います。沿岸地域で作られた加工品や被災した人の手作り品などの販売会が市内で開催されます。ぜひ利用してみてください。



### ② ドライブや旅行なら、沿岸地域へ行ってみよう

三陸復興道路や三陸鉄道の開通などにより、沿岸部へのアクセスは改善されています。震災以来途絶えていたイベントや祭りなども各地で徐々に復活。沿岸地域の元気を応援しに、出掛けてみませんか。



▲広田海水浴場(陸前高田市)

### ③ 口コミ・SNSなどで、沿岸地域の元気を伝えよう

沿岸地域に出掛けたら、その様子を周りの人に伝えましょう。フェイスブックやツイッター、インスタグラムなどのSNSを利用すれば、日本全国、世界に復興の様子を伝えられます。



## レポート 被災地の「今」

### 釜石市



復興推進本部事務局で勤務 鷹野洋平 主事

ラグビーワールドカップの開催を9月に控え、釜石鶴住居復興スタジアムの完成を、多くの釜石市民が待ち望んでいました。昨年8月のこけら落としイベントでは日本のラグビートップリーグ選手らとの交流や記念試合などが行われ、まちは盛り上がりました。当日は市内の中学生全員が招かれ、次世代を担う子どもたちにも「ラグビーのまち・釜石」として夢や希望を与えられたのではないのでしょうか。また、平成24年から整備を始めた復興公営住宅は、昨年中に全て完成。3千戸以上あった仮設住宅も、約4割で解体・集約が進みました。一方、いまだ仮設住宅に暮らし続けている人もおり、被災した人たちの住まいの再建が果たされるまで、復興の取り組みは続きます。



釜石鶴住居復興スタジアム

### 陸前高田市



被災者支援室で勤務 花田咲香 主事

JR陸前高田駅の竣工に合わせて、昨年9月に「まちびらさままつり」が行われました。市街地再生の第一歩である、市中心部の「館の沖橋」の渡り初めや公共交通の拠点となる「交通広場」の完成式、サイクリングで新しい街並みや三陸の自然を満喫する「ツール・三陸」など、二日間に渡って活気あふれるイベントが開催され、まちは大いに賑わいました。今年8月には、かつての高田松原の地に東日本大震災津波伝承館(愛称:いわてTSUNAMIメモリアル)を併設した道の駅も完成する予定。地域の魅力が詰まった、また多くの人が行き交う交流の場ができることに、市民の期待もふくらんでいます。今年の夏は、陸前高田市に遊びに来てくださいね!



ツール・三陸

### 大槌町



商工観光課で勤務 今川千穂 主事

震災以降、住民が待ち望んでいた大槌駅観光交流施設が2月に完成。三陸鉄道リアス線の開通を目前に控え、多くの住民が交通網の復活に期待しています。また、昨年6月に完成した全国初の純木造3階建て、木の香りが漂う大槌町文化交流センター(愛称:おしゃっち)は、図書室やホール、震災伝承展示室を備え、住民が気軽に集うことのできる場として、また震災の記憶と教訓を伝える施設として親しまれています。昨年9月には曳き舟まつり、11月には産業まつりが震災後初めて開催され、町内外から訪れた多くの人で、町は活気に満ちあふれました。復興に向けて日々、前進する大槌の様子を皆さんに見てほしいですね。



ひょうたん島がモチーフの大槌駅

## 3.11絵本プロジェクトいわて

「被災地の子どもたちに絵本を届けよう!」と、震災直後から活動を始めました。全国から集まった絵本は約23万冊。たくさんの方のボランティアの力を借りながら、これらを一冊一冊段ボール箱から出し、子どもの年齢別などに仕分けするのに1年かかりました。軽トラックを改造した移動図書館車「えほんカー」から、目を輝かせながら、思い思いに本を選ぶ子どもたちの姿は、忘れられませんね。2年目からは、「絵本サロンプロジェクト」を開始。絵本があってほっとできる場所が増えるよう、被災地で活動する図書ボランティアのためにアイデアを伝えたり、学童クラブなどの開設のための支援をしたりしています。昨年は「出張絵本サロン」で7回被災地に出掛け、絵本と笑顔を届けました。最初から、期間を10年と決めて活動しているこのプロジェクト。残りの期間も、被災地に寄り添い、ニーズに応えられるよう活動していきたいです。



赤澤千鶴事務局長(2列目左)とボランティアの皆さん

## 行ってみよう! 三陸防災復興プロジェクト2019

今年も、三陸鉄道が久慈から盛(大船渡市)までつながるほか、陸前高田市で東日本大震災津波伝承館の開館、9月には釜石市でのラグビーワールドカップ2019™の開催など、沿岸地域にたくさんの方が訪れる年でもあります。これに合わせて、沿岸地域が復興に力強く取り組む地域の姿と、支援に対する感謝の気持ちを国内外に発信するため、さまざまなイベントが開催されます。イベントの詳細は、新聞やテレビ、同プロジェクトのホームページでお知らせします。  
📞 同プロジェクト実行委員会 ☎ 629-6222



イベントの詳細はこちら



7月には宮古市で、三陸地域の伝統芸能をはじめ、岩手の祭りが一同に会するイベントを開催。「もりおかさんさ踊り」も参加し、盛り上げます!



盛岡市長 谷藤裕明

期間: 6月1日(土)~8月7日(水)  
会場: 沿岸部13市町村